第92回運営委員会
資料-4

2009.10.19

意見書

松本　誠　委員長

委員　村岡　浩爾

第 91 回運営委員会・資料-1 として配布されました「既存ダムについて」（月別取水量データと月別降雨量データ）を参考にし、月別負荷量の資料から丸山ダム、神戸市全体、千苅ダムのについて上水道の渇水状況と上水道給水計画上の問題について下記のような意見を述べたいと思いますので、よろしくお取りはからい頂きますよう、お願い申し上げます。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

○　上述資料の整理対象期間：平成 10 年 4 月～平成 20 年 3 月（１０年間、１２０ヶ月）

$$\text{○　月別負荷率} = \frac{\text{月別日平均取水量}}{\text{月別日最大給水量}}$$

月別負荷率が０．８５未満の生起月数

	4.5.6 月 回数、%	7.8.9 月 回数、%	10.11.12 月 回数、%	1.2.3 月 回数、%	全体 回数、%	月別負荷率 最低値
丸山ダム	0 0%	0 0%	3 2．5%	2 1．7%	5 4．2%	0．79 (平 11.12)
神戸市全体	0 0%	0 0%	0 0%	1 0．8%	1 0．8%	0．83 (平 20.3)
千苅ダム	3 2．5%	2 1．7%	4 3．3%	7 5．8%	16 13．3%	0．71 (平 10.4)

〔参考〕一般の水道計画においては

$$\text{負荷率} = \frac{\text{1日平均給水量}}{\text{1日最大給水量}} = 0．85$$

$$\text{有収率} = \frac{\text{有収水量}}{\text{給水量}} = 0．9$$

表より以下のことが言える。

１．千苅ダム給水状況は、月別負荷率にして０．８５を割る回数が他に比べて多い。
２．神戸市全体では、ほとんど０．８５以上を維持しているので、深刻な給水不足は生じていないと見られる。
３．このことより、千苅だダム給水域を除く神戸市域では概して水供給は十分機能している状態とみられ、今後、給水地域で飲料水給水の融通性を高めるシステムを検討することにより、地域の較差をなくする広域の水需給の効率化がはかれるものと考える。
４．このことにより、千苅ダムを含めてより合理的な浄水供給により、余剰の水量を治水容量に転用することの可能性を検討する必要性があると判断する。

以上の考察から、河川管理者関係に次のことを要望する。

１．上記の考察では、月単位の資料に基づくものであるため、負荷量が０．８５を割った月の中で、現実にどのような水不足状態であったのか、また日単位で水不足状態がどの程度続いたのか、その間行政はどのような対応を講じたのか、その結果受益者としての住民はどのような状況におかれたのか、それらに関する資料の提供をお願いしたい。
２．先述したごとく、負荷率のほかに有収率も現実にどのような状態なのか、明らかにする必要がある。すなわち、負荷率が０．８５と設定されているのも全国の状況に従っただけとも捉えられかねなく、武庫川流域で０．８５とする必然性がないごとく、有収率についても０．９とする根拠が極めて曖昧である。従って有収率についての実態についてまず資料を求める次第である。（最初の資料としては月単位でよいかと判断する。）
３．これらの検討資料をもとに、改めて既往ダムの治水転用の可能性を、県行政の担当枠を越えて検討して頂きたい。

以　上